

# 非虚血性心室性頻拍症の心筋病理像: 手術時切除心筋材料による検討

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/14898">http://hdl.handle.net/2297/14898</a>

学位授与番号	医博乙第1099号
学位授与年月日	平成2年10月16日
氏名	石田一樹
学位論文題目	非虚血性心室性頻拍症の心筋病理像 —手術時切除心筋材料による検討—
論文審査委員	主査 教授 岩 喬 副査 教授 中西 功夫 教授 中 沼 安 二

### 内容の要旨および審査の結果の要旨

非虚血性心室性頻拍発作は、心筋症や腫瘍による一部のものを除いては、従来、特異性（原因不明）として扱われており、その発生源の病理像も不明である。本研究は、非虚血性心室性頻拍症の病因の解明を目的として、電気生理学的検索にて同定された頻拍の責任病巣としてリエントリー回路19例、自動能亢進の可能性が示唆された2例よりなる手術時切除心筋材料を用いて、連続薄切標本を作成、光顕的に観察、頻拍発生源の病理組織学的特徴を検索したものである。検索の結果、以下の結論を得た。

- (1) 頻拍源の病理像として心筋炎15例、不整脈源性右室異形成症（ARVD）5例、心筋内線維腫1例を認めた。
- (2) 径2mm程の巣状心筋炎が頻拍発生に関与していると推定された1例および右室内異所性筋束の付け根に極く小さい炎症巣を持つ1例を認め、連続薄切標本作製が有用な検索手段であることを確認した。
- (3) 広範囲心筋炎を認めた症例については、脂肪浸潤が著明で主に右室に認められる一群と、間質の線維化が著明で主に左室に認められる一群に分類できた。両群ともに生き残り心筋に細胞列の離断、配列の乱れ、疎な網目状構造、肥大などが観察された。
- (4) ARVDでは右室壁中の脂肪組織による心内膜下と中層の心筋層の連結の減少および小動脈の中膜肥厚が特徴的であった。
- (5) 線維化巣・脂肪組織などによる心筋細胞列の不規則・多発的途絶病変・疎な網目状心筋配列などによる特殊な迷路形成が、リエントリー型心室性頻拍（VT）の形態学的裏付けとなりうる。
- (6) ARVD型の心筋病変（内層・中層間の多発性途絶）が、VTとともに心室遅延電位と対応する可能性がある。
- (7) 心筋細胞の限局性肥大や配列の乱れが異所性自動能亢進型VTの発生源となりうると思われる。

以上本論文は、病因、様式不明な非虚血性心室性頻拍に関し、病理学的解明を行ったもので、種々の新知見を含み、不整脈学研究、治療に有用な論文と評価された。